

**令和元年度
越谷市行政評価制度支援業務
外部評価実施結果報告書**

**令和元年11月
一般社団法人構想日本**

令和元年度

外部評価実施結果報告書 目次

はじめに	1
1 外部評価の目的	2
2 外部評価の実施方法	3
3 外部評価の基準	6
4 外部評価者の構成	7
5 外部評価対象事業	8
6 外部評価の実施スケジュール	10
7 外部評価実施結果	13
8 外部評価実施結果の総括	31

はじめに

越谷市は「越谷市自治基本条例」に、行政評価を位置付けており、行政評価の一環として、外部評価を実施している。行政評価は行政運営の中に Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)のマネジメントサイクルを構築することによって、行政運営上の様々な課題を克服し、最終的には「住民満足度の向上(越谷に暮らしてよかったと思えるように)」を図ることを目標として実施されている。

平成 16 年度に試行を行い、翌平成 17 年度より本実施、以後改善を加えて継続実施している。今年度は本実施から 13 回目にあたり、構想日本は今年度から協力をした。

外部評価は、越谷市が位置づけているように、最終的には「住民満足度の向上(越谷に暮らしてよかったと思えるように)」に結びつくことが肝要である。

これまで 10 年を超える外部評価実施の中で、越谷市には事業の見直し等について、多くの実績やノウハウの蓄積があると感じられた。

ただし、評価の方法は全国の自治体でも見直しや工夫により、改良されている。越谷市でもこれまでのやり方にとらわれずに外部評価の仕組み自体の見直しを図ることが「住民満足度の向上(越谷に暮らしてよかったと思えるように)」という目標の実現につながると考える。

本報告書は、令和元年 10 月に実施した 17 事業の評価結果等を取りまとめたものである。越谷市の事業、そして外部評価がより良いものとなる一助となれば幸甚である。

令和元年 11 月
構想日本

1 外部評価の目的

行政評価制度における外部評価の目的は、行政評価を実施するにあたって事業課による内部評価だけでなく、個々の事業について利害関係を有しない中立的な外部の評価を加えることで、行政評価の客観性・透明性を確保することを目的としている。

あわせて、越谷市においては事業課に対するヒアリングを公開で行っていることから、職員が事業の目的・内容等を市民に対してわかりやすく説明し、理解していただくための場としての意味も持つ。

さらに、外部評価結果を行政評価制度の向上を図るための参考としている。

外部評価の目的

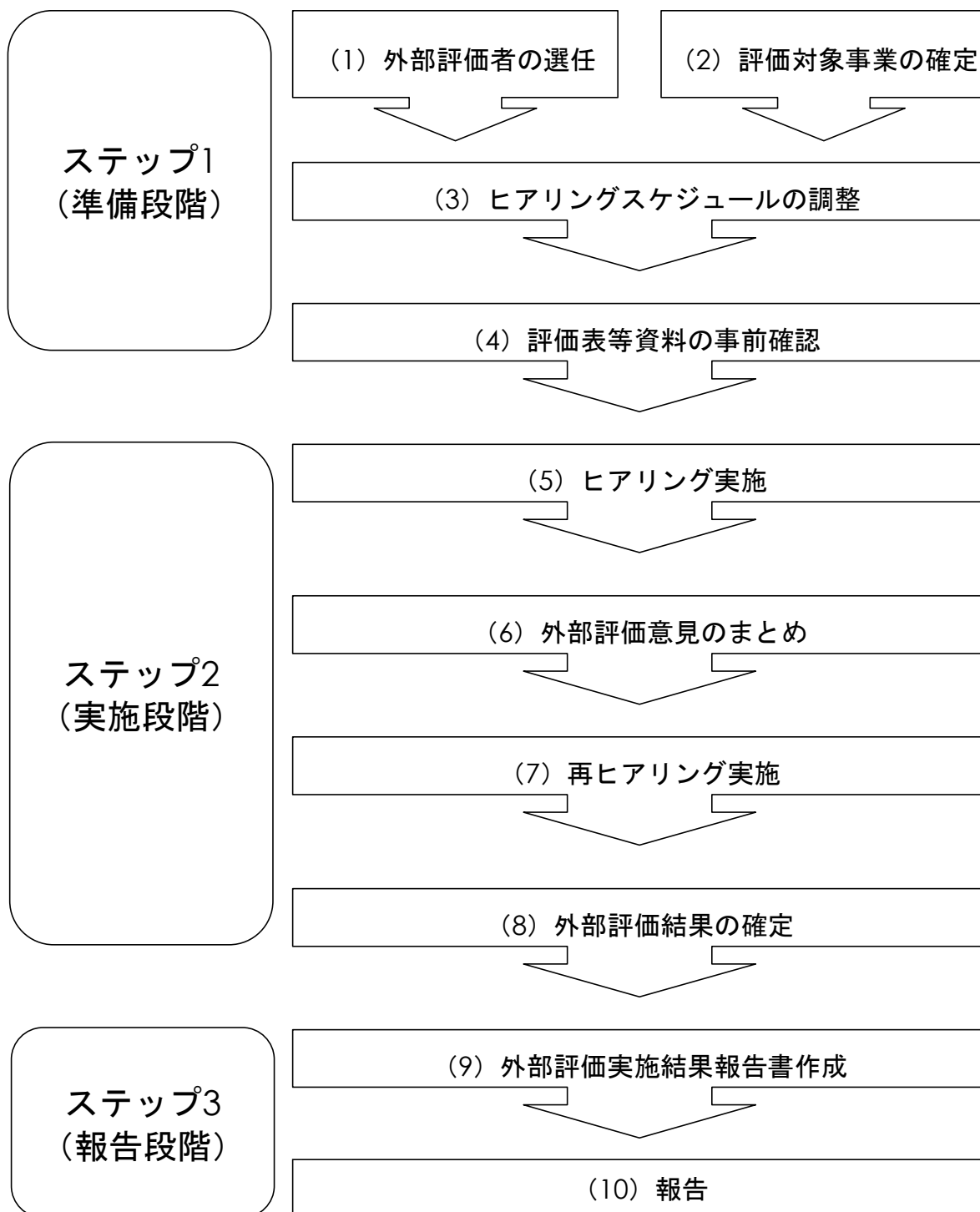
- 1 評価の客観性、透明性の確保
- 2 ヒアリングの公開
- 3 行政評価制度の向上

越谷市の外部評価は、平成 16 年度に試行を行い、翌平成 17 年度より本実施を開始している。以後改善を加えて継続実施し、本年度は本実施 13 回目にあたる(平成 27 年度まで毎年実施してきたが、以後隔年実施の方針が示され、本年度は 2 年ぶりに実施した)。

2 外部評価の実施方法

外部評価は、以下に示す手順で実施した。

図表1:越谷市外部評価実施手順



(1) 外部評価者の選任

学識経験者、税理士、行政または企業経営コンサルタント等の有識者で、行政の諸分野及び行政評価に関する相応の知識または経験を有する候補者より、外部評価者を選任した。

(2) 評価対象事業の確定

越谷市において、今年度の外部評価対象事業の選定を行った。

(3) ヒアリングスケジュールの調整

確定した外部評価対象事業の担当部署と、ヒアリング実施スケジュールの調整を行った。

(4) 評価表等資料の事前確認

評価基準や資料の確認のため、会議を9月13日に開催し、今年度の外部評価実施方法、実施スケジュール、評価指標等を確認した。

また、外部評価対象事業について、各外部評価者が「事務事業評価表」、「補助金等に関する調書」ならびに事業内容の説明資料により事業内容を確認し、ヒアリング時における確認事項等について事前に調査を行った。

(5) ヒアリング実施

評価対象事業ごとに、外部評価者が事業の所管課に対し事業内容及び評価結果について傍聴制による公開ヒアリングを実施した。

ヒアリングの実施は、外部評価者2人ずつ2チームに分かれ、全17事業を2日間にわたりヒアリングした。ヒアリング時間は、1事業(補助金等を含む事業が一部あり)につき原則40分間とし、各事業とも概ね以下の時間配分とした。

5分 事業担当部署より事業内容及び評価結果について説明

30分 質疑応答

5分 講評

(6) 外部評価意見のまとめ

ヒアリング結果に基づき、対象事業のヒアリングを担当した外部評価者間での意見交換による総合評価を行った。なお、この段階での総合評価は、暫定的な評価である。

評価結果は事務局を経由し、各担当課に通知された。

(7) 再ヒアリング実施

各担当課より追加説明の要請があった事業について、スケジュールを調整し、公開再ヒアリングを実施した。再ヒアリングは、1日間とし1事業について30分とした。

(8)外部評価結果の確定

再ヒアリングの結果を踏まえ、全事業について評価を確定した。

(9)外部評価実施結果報告書作成

外部評価実施結果について、実施した経過及び結果についてまとめた報告書を作成した。

(10)報告

外部評価実施結果について、行政経営推進本部等へ結果報告した。

3 外部評価の基準

外部評価は、ヒアリング結果をもとに評価者の意見交換により総合評価として行うものとし、評価は市が実施した内部評価同様、A・B・C・Dの4段階評価とした。その評価基準は以下の図表2のとおりである。

また、評価の理由、今後の事業のあり方等について、コメントを付すこととした。

図表2：総合評価類型

類型	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

補助金等事業を含む事業については、事業の評価に加え、補助金等事業ごとに、市所定の基準により市が内部評価した「継続」、「減額(縮小)」、「要改善」、「廃止」、「終期設定」、「統合・メニュー化」の方向性を示す評価に対する再評価と評価結果についてのコメントを付すこととした(図表3)。補助金等事業に対する外部評価も、市の内部評価同様、以下の6区分とその組み合わせとした。

図表3：補助金等事業評価区分

区 分
継続
減額(縮小)
要改善
廃止
終期設定
統合・メニュー化

4 外部評価者の構成

外部評価は、学識経験者、税理士、行政または企業経営コンサルタント等の有識者で、行政の諸分野及び行政評価に関する相応の知識または経験を有する者から選任した外部評価者により実施した。今年度の外部評価者は、以下の4名である。事業評価のヒアリングにあたっては、2名一組の2つのチームを編成し、それぞれA班、B班とした。

図表4: 令和元年度越谷市外部評価者

班	氏名	備考
A 班	田中 俊 (たなか しゅん)	一般社団法人構想日本プロジェクトマネージャー ＜事業評価等の経歴＞ ・大津市施策評価市民モニタリング コーディネーター(平成30年度) ・鴨川市行政事業レビュー コーディネーター(平成30年度)
	露木 幹也 (つゆき みきや)	一般財団法人小田原市事業協会 収益事業課 主事長 ＜事業評価等の経歴＞ ・香取市事業仕分け 仕分け人(平成30年度) ・古河市行政事業レビュー仕分け人(平成30年度)
B 班	小瀬村 寿美子 (こせむら すみこ)	厚木市こども未来部こども政策アドバイザー ＜事業評価等の経歴＞ ・香取市事業仕分け 仕分け人(平成30年度) ・鴨川市事業仕分け 仕分け人(平成30年度)
	太田 康広 (おおた やすひろ)	慶應義塾大学ビジネス・スクール教授 ＜事業評価等の経歴＞ ・羽島市事業仕分け 仕分け人(平成29年度)

5 外部評価対象事業

(1) 外部評価対象事業の抽出

今年度評価対象とした事業は、内部評価の結果を踏まえて以下の手順(図表5)により抽出した事務事業について、行政経営推進本部会議を経て、市長決裁により確定した。

【外部評価対象事業の抽出条件】

平成30年度に実施し、行政管理課で整理を行った計589事業のうち、事務事業評価表作成の対象となる第4次総合振興計画後期基本計画・第二期実施計画対象事業及び事業予算300万円以上の事業の合計415事業(平成30年度中に廃止した事業を除く)から、以下の基準に従い17事業を選出した。

- ① 外部評価未実施の事業
- ② 事務事業評価(事後評価)の結果、妥当性・効率性・有効性・貢献度からの視点やクロス分析で課題があると思われる事業
- ③ 長期継続している事業(20年以上続いている事業)
- ④ 担当課自ら総合評価でA(事業内容は適切である)と判断した事業
- ⑤ 過去の外部評価で「C」評価又は「D」評価を受けた後の対応を、「整理済」とした事業
- ⑥ 平成22年以前に外部評価を受けた後、外部評価を受けていない事業
- ⑦ 自薦の事業
- ⑧ その他、外部評価に付すことが適当と思われる事業(補助金が含まれる事業、事業の「活動結果」、「成果」を定量的に判断した結果、当該年度の達成度が「C」と判断された等)

図表5: 令和元年度外部評価対象事業の抽出手順

1. 事務事業数(平成30年度実施事業)		589事業
↓	うち、平成30年度第4次総合振興計画後期基本計画・第二期実施計画対象事業	365
	実施計画対象以外の平成30年度当初予算における細々目事業数※1	224
2. 事後評価表作成事業数		415事業
↓	うち、外部評価未実施の事業数	106
3. 抽出条件適用後の事業数		17事業
抽出条件別事業内訳※2	(1) 外部評価未実施の事業(平成29年度以降の開始など今年度の外部評価になじまない事業除く)	7
	(2) 事務事業評価(事後評価)の結果、妥当性・効率性・有効性・貢献度からの視点やクロス分析で課題があると思われる事業	7(2) ※3
	(3) 長期継続している事業(20年以上続いている事業)	6(1) ※3
	(4) 担当課自ら総合評価でA(事業内容は適切である)と判断した事業	5(3) ※3
	(5) 過去の外部評価で「C」評価又は「D」評価を受けた後の対応を、「整理済」とした事業	2
	(6) 平成22年以前に外部評価を受けた後、外部評価を受けていない事業	9
	(7) 自薦の事業	3
	(8) その他、外部評価に付すことが適当と思われる事業(補助金が含まれる事業、事業の「活動結果」、「成果」を定量的に判断した結果、当該年度の達成度が「C」と判断された等)	4(2) ※3

※1 評価表作成に当たって「複数の細々目を1つの事務事業として集約したもの」も含む。(例: 介護サービス事業、介護予防サービス事業など)

※2 複数の条件に該当する事業があるため、各項目の合計が条件適用後の事業数とは一致しません。

※3 ()内は、外部評価未実施事業数

(2) 今年度対象事業

選定の結果、17事業を対象とした。うち、4事業は補助金等を含む事業であり、対象とした補助金等は4補助金等である(図表6)。

今年度の実施により、平成16年度の試行から通算608事業、94補助金等について外部評価を実施したことになる。

図表6: 令和元年度外部評価対象事業一覧(17事業(4補助金等を含む))

NO.	事業名	補助金等	所管	
			部名	課名
1	越谷しらこぼと基金事業	越谷しらこぼと基金助成金	市民協働部	市民活動支援課
2	防災施設整備事業			危機管理課
3	交通安全推進事業			くらし安心課
4	斎場運営事業	越谷市霊柩自動車利用助成金		市民課
5	審査会事業		福祉部	障害福祉課
6	生活支援体制整備事業			地域包括ケア推進課
7	介護保険利用者負担軽減対策事業			介護保険課
8	健康づくり推進事業		保健医療部	市民健康課
9	魅力発信事業	魅力発信プロモーション事業費補助金	環境経済部	観光課
10	農地集積事業			農業振興課
11	交通安全応急対策事業		建設部	道路総務課
12	ポンプ場改修事業			治水課
13	都市計画支援システム事業		都市整備部	都市計画課
14	既存建築物改修促進事業	住宅耐震改修等補助金		建築住宅課
15	伝統芸術文化振興事業		教育総務部	生涯学習課
16	蔵書等整備事業			図書館
17	研究委嘱校等支援事業		学校教育部	指導課

6 外部評価の実施スケジュール

今年度の外部評価は、以下のスケジュールで実施した(図表7)。

図表7: 令和元年度越谷市外部評価実施スケジュール

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	外部評価者の選任	→						
2	評価対象事業の選定		→					
3	ヒアリングスケジュールの調整		→					
4	今年度内部評価結果資料の受領		→	7/16				
5	外部評価者資料等確認会議				→	9/13		
6	評価等資料の事前確認			→				
7	ヒアリング実施					→	10/1.2	
8	外部評価意見のまとめ					→		
9	再ヒアリング実施					→	10/18	
10	外部評価意見の確定					→		
11	外部評価結果報告書作成					→		
12	外部評価結果報告書提出						→	
13	外部評価結果報告						→	

ヒアリングは、10月1、2日の2日間にわたり公開により実施し、A班は第1日目5事業、B班は第1日目4事業、第2日目はA班、B班ともそれぞれ4事業を対象とした(図表8、図表9)。

再ヒアリングについては、10月18日に公開により実施した。実施事業数は、A班1事業であった(図表10)。

図表8:外部評価実施スケジュール(第1日目)

【A班】

事業名	部名	課名	時間
防災施設整備事業	市民協働部	危機管理課	10:00～10:40
蔵書等整備事業	教育総務部	図書館	10:50～11:30
審査会事業	福祉部	障害福祉課	13:00～13:40
生活支援体制整備事業	福祉部	地域包括ケア推進課	13:50～14:30
介護保険利用者負担軽減対策事業	福祉部	介護保険課	14:40～15:20

【B班】

事業名	部名	課名	時間
越谷しらこぼと基金事業	市民協働部	市民活動支援課	10:00～10:40
健康づくり推進事業	保健医療部	市民健康課	10:50～11:30
伝統芸術文化振興事業	教育総務部	生涯学習課	13:00～13:40
魅力発信事業	環境経済部	観光課	13:50～14:30

図表9:外部評価実施スケジュール(第2日目)

【A班】

事業名	部名	課名	時間
研究委嘱校等支援事業	学校教育部	指導課	10:00～10:40
ポンプ場改修事業	建設部	治水課	10:50～11:30
交通安全推進事業	市民協働部	くらし安心課	13:00～13:40
交通安全応急対策事業	建設部	道路総務課	13:50～14:30

【B班】

事業名	部名	課名	時間
農地利用集積事業	環境経済部	農業振興課	10:00～10:40
都市計画支援システム事業	都市整備部	都市計画課	10:50～11:30
既存建築物改修促進事業	都市整備部	建築住宅課	13:00～13:40
斎場運営事業	市民協働部	市民課	13:50～14:30

図表10:再ヒアリング対象事業及び実施スケジュール

事業名	部名	課名	時間
介護保険利用者負担軽減対策事業	福祉部	介護保険課	9:30～10:00

7 外部評価実施結果

今年度、外部評価者が評価した17事業の評価結果は、A「事業内容は適切である」が2事業(全体の11.8%)、B「課題が少しあり事業の一部見直しが必要」が11事業(全体の64.7%)、C「課題が多く事業の大幅な見直しが必要」が3事業(全体の17.6%)、D「事業の休・廃止を含めた検討が必要」が1事業(全体の5.9%)となった。

今年度評価した17事業とそれぞれの評価結果は図表11のとおりとなる。

図表11:対象事業と内部評価・外部評価結果

No.	部名	課名	事業名	内部評価	外部評価
1	市民協働部	市民活動支援課	越谷しらこぼと基金事業	B	C
2		危機管理課	防災施設整備事業	B	B
3		くらし安心課	交通安全推進事業	B	B
4		市民課	斎場運営事業	A	C
5	福祉部	障害福祉課	審査会事業	B	B
6		地域包括ケア推進課	生活支援体制整備事業	B	C
7		介護保険課	介護保険利用者負担軽減対策事業	B	D
8	保健医療部	市民健康課	健康づくり推進事業	B	B
9	環境経済部	観光課	魅力発信事業	B	B
10		農業振興課	農地利用集積事業	A	B
11	建設部	道路総務課	交通安全応急対策事業	A	B
12		治水課	ポンプ場改修事業	A	A
13	都市整備部	都市計画課	都市計画支援システム事業	B	A
14		建築住宅課	既存建築物改修促進事業	B	B
15	教育総務部	生涯学習課	伝統芸術文化振興事業	B	B
16		図書館	蔵書等整備事業	B	B
17	学校教育部	指導課	研究委嘱校等支援事業	A	B

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	1	事業名	越谷しらこぼと基金事業
担当部	市民協働部	担当課	市民活動支援課
内部評価	B	外部評価	C
補助金 内部評価	継続	補助金 外部評価	要改善
外部評価(評価員のコメント)			
<p>※越谷しらこぼと基金助成金の評価も含めたコメントです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的を達成する手段をゼロベースで考え直して、9億円の資源の有効活用を考えるべき。 ・スポーツ・文化振興を目的とするのであれば、薄くばらまくのではなくメリハリをつけてはどうか。 ・元本の取り崩し、運用手段の柔軟化も検討するべき。 ・助成の基準、審査の基準を定量的なものに変えるべき。 ・成果を明確にしていないので、効果があったか判断がつかない。 ・そもそも毎年400万円を上限にしている事業の仕組みを根本から見直すことも今後必要ではないか。 ・ばらまきの事業と思われてしまわないように目的と効果を整理するべき。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	2	事業名	防災施設整備事業
担当部	市民協働部	担当課	危機管理課
内部評価	B	外部評価	B
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ハード整備については、現行の計画に則って進めていけばよいと思われる。 ・案内板等の自立式を見直す等、コスト意識を持って進める必要がある。 ・当事業はハードの整備であるが、住民防災組織との連携により、より効果的な活用をできるようにしていくことが重要である。 ・防災無線については聴こえないや聴こえにくい地域の明確化、そのためのフィードバック(市としての調査、市民からの声)を得られる体制が必要である。 ・案内板については、アプリがあるから OK ではなく案内板として必要な箇所も精査し、しっかりと整備するべき。その際、自立式のものなどコスト面を含めてあり方を検討するべき。 ・アプリ等については作成後、いかに使ってもらうかが大事。市民への周知、自主防災組織との連携など工夫が必要である。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	3	事業名	交通安全推進事業
担当部	市民協働部	担当課	くらし安心課
内部評価	B	外部評価	B
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの活動に参加した人の意識や行動がどのように変わり、目指している事故減少などにどのように寄与しているのか測っていくべき。 ・危険箇所の情報を警察から得て地域への情報発信をもっと積極的に進める必要がある。 ・警察との情報共有を行い、安全対策に活かすことも重要である。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	4	事業名	斎場運営事業
担当部	市民協働部	担当課	市民課
内部評価	A	外部評価	C
補助金 内部評価	継続	補助金 外部評価	廃止
外部評価(評価員のコメント)			
<p>・斎場の運営は財政負担額が大きいため、財政状況を改善できない場合は、PFI 事業期間終了後に民営化を検討すべき。</p> <p>※越谷市霊柩自動車利用助成金の評価</p> <p>・当初の目的から変わってしまった今、アンケート結果も判断材料の1つに加え廃止の方向で取り組むべき。</p>			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	5	事業名	審査会事業
担当部	福祉部	担当課	障害福祉課
内部評価	B	外部評価	B
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・法的な制度の中では、しっかりと審査ができています。 ・制度の実態を把握し、制度のよりよい運用や改正を上申していくことが必要である。 ・基本的には厚労省の枠組みの中で実施している事業だが、そもそも枠組み自体に課題があることが分かった。それを変えるためには、自治体として声をあげていただきたい。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	6	事業名	生活支援体制整備事業
担当部	福祉部	担当課	地域包括ケア推進課
内部評価	B	外部評価	C
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・5年間が経ち、具体的な取組みという次のフェーズに移るべき。その意味で現状のやり方を大きく見直す必要がある。 ・まだ具体的な取組みがスタートしていないので評価しにくいですが、まずはできることから(担い手確保)実施していくことが必要である。 ・既に地域の中につながりや動いている方がいると思うので、それらの課題解決やより良くするための活動を行っていくべき。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	7	事業名	介護保険利用者負担軽減対策事業
担当部	福祉部	担当課	介護保険課
内部評価	B	外部評価	D
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・本当にこの制度が必要なのか、今後の市の負担や受給者の実情をしっかりと把握した上でゼロベースからの見直しが必要である。 ・この事業がないと対象の方たちは何がどう困ってしまうのか。逆に言うこの事業は何を支えているのか。それを明確にして、どの水準まで支える必要があるのかゼロベースで見直す必要がある。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	8	事業名	健康づくり推進事業
担当部	保健医療部	担当課	市民健康課
内部評価	B	外部評価	B
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・人を投入すべき新たなニーズが増えていく中で人材不足を解決するためには、まず分野別の必要な人材の量を算出してみたらどうか。 ・サポーターを養成していく中で、活躍する場を更に広げることにより活用でき、やる気も出る。職員の不足分を補完できる部分もあるだろう。 ・参加者の裾野を広げることを検討すべき。 ・民間のセミナーに対して参加費の補助を出すという方法も考えられる。 ・行政が無料でサービス提供するのがよいかどうかは、慎重な検討が必要である。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	9	事業名	魅力発信事業
担当部	環境経済部	担当課	観光課
内部評価	B	外部評価	B
補助金 内部評価	継続	補助金 外部評価	要改善
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・目的と手段の不一致⇒目的(知名度の向上、郷土愛の醸成)に対し、活動指標が観光協会のアクセス数であるが、目的達成の手段になりうるのか疑問がある。 ・成果指標と本事業との因果関係が不明確⇒成果指標が市への愛着度となっているが、その理由が、本事業によるものか、自然環境、高齢者・子ども施策等によるものか、因果関係が不明確であり、事業の成果とは言い切れない。 ・ターゲティングが不明瞭⇒若者向けと高齢向け、市内向けと首都圏向けなど様々な対象物に対し、同じ内容でアプローチしているようだが、どのようなターゲットに対しどのようにアプローチしていくのか、明確な回答が得られなかった。 <p>※魅力発信プロモーション事業費補助金の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助金についても、ターゲットを明確にし、どんな成果を目指すのか再考してほしい。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	10	事業名	農地利用集積事業
担当部	環境経済部	担当課	農業振興課
内部評価	A	外部評価	B
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度までの目標は達成できそうにないので、現実的な目標を設定する必要がある。 ・農業者の受益者負担率がゼロでは一般市民の納得が得られないので、一定程度の受益者負担を求める事はできないか検討するべき。 ・集積を進めていくためには、個人の担い手ではなく法人化した担い手の育成を進めていくことも必要ではないか。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	11	事業名	交通安全応急対策事業
担当部	建設部	担当課	道路総務課
内部評価	A	外部評価	B
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・くらし安心課との連携を図るとお互いに効率的に実施できるのではないか。 ・公共交通事業者からの情報収集に努めることが望まれる。 ・成果の見せ方、出し方について工夫ができる。 ・優先順位を付けた上で対策が必要な箇所数を出して、それがどの程度解消できているのかを見せることで市民にとってもより分かりやすくなる。 ・ソフト事業を行っているくらし安心課とも連携し、ハード・ソフトを一体的に交通安全対策を進めていただきたい(特に情報共有)。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	12	事業名	ポンプ場改修事業
担当部	建設部	担当課	治水課
内部評価	A	外部評価	A
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ストックマネジメント制度への移行に伴う計画も策定されている。 ・しっかり計画に従って事業を推進していくことが望まれる。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	13	事業名	都市計画支援システム事業
担当部	都市整備部	担当課	都市計画課
内部評価	B	外部評価	A
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・市町村ごとのシステムの差異が小さいので、広域連携によってコスト削減することが考えられる。 ・ユーザーインターフェイスの改善を図る仕組みが準備されると尚良いと考えられる。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	14	事業名	既存建築物改修促進事業
担当部	都市整備部	担当課	建築住宅課
内部評価	B	外部評価	B
補助金 内部評価	継続	補助金 外部評価	要改善
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・重点的に改修を進めるエリアを検討すべき。 ・まずは現状の把握が重要である。危険度の高いエリア、戸数などを調査すべき。 <p>※住宅耐震改修等補助金の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点地域を定めて、補助の積み増しと義務化を両面で進めていくのがよいと考えられる。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	15	事業名	伝統芸術文化振興事業
担当部	教育総務部	担当課	生涯学習課
内部評価	B	外部評価	B
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・能は変わらないことが重要ということであれば、初心者向けの教室、その他の周辺事業で赤字補填するなど、収益を挙げていく工夫が必要である。 ・チケット前売り券が完売するようであれば、価格設定が低すぎるということである。料金設定を 3,500 円から上げることも必要ではないか。 ・事業を継続できるようにするためには、他イベントで裾野を広げること、収入確保の努力をすることも必要と考えられる。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	16	事業名	蔵書等整備事業
担当部	教育総務部	担当課	図書館
内部評価	B	外部評価	B
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・システムの更新時期が近いということなので、費用対効果を考慮しながらより良いシステムを導入していく必要がある。 ・現在の課題を十分把握した上で新しいシステムを選定していく必要がある。 ・利用状況をより簡易に分析できるシステムであれば、選書配架などより良い運営が可能になる。 ・地区センターについては、全てをシステムにつなぐ必要はないと思うが、より利便性が上がる場所を選定してシステムにつなぐことも検討してみてはどうか。 ・小中学校とのデータベース共有を可能な限り検討してみてはどうか。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

越谷市「外部評価」 評価結果

事業 NO.	17	事業名	研究委嘱校等支援事業
担当部	学校教育部	担当課	指導課
内部評価	A	外部評価	B
補助金 内部評価	/	補助金 外部評価	/
外部評価(評価員のコメント)			
<ul style="list-style-type: none"> ・研究の成果について、評価をフィードバックすることが重要である。 ・この事業が学校にどう反映されているのかを分析することが大切である。 ・どのような研究がどのように成果を上げているのかが見えにくかった。 ・この事業があるからどのように学力向上等に効いているのか。具体的に把握、説明していく必要がある。 			

評価結果の区分

●事業の評価

区分	内容
A	事業内容は適切である
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要

●補助事業の評価

区分	内容
(1)	継続
(2)	減額(縮小)
(3)	要改善
(4)	廃止
(5)	終期設定
(6)	統合・メニュー化

8 外部評価結果の総括

(1) 内部評価と外部評価結果の比較

上記の対象事業の内部評価結果は、Aが5事業、Bが12事業に対し、外部評価では、Aが2事業、Bが11事業、Cが3事業、Dが1事業と評価した。

外部評価と内部評価の結果集計を比較すると図表12のとおりとなる。

図表12: 内部評価結果と外部評価結果の比較

評価	内容	内部評価事業数	外部評価事業数
A	事業内容は適切である	5(29.4%)	2(11.8%)
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要	12(70.6%)	11(64.7%)
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要	—	3(17.6%)
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要	—	1(5.9%)

また、補助金等事業を含む事業については、上記のうち4事業が対象となった。内部評価ではAが1事業、Bが3事業のところ、外部評価ではBが2事業、Cが2事業と評価した。

補助金等事業を含む事業に関する外部評価の総合評価の集計結果を、内部評価結果と比較すると、図表13のとおりとなる。

図表13: 補助金等事業を含む事業の内部評価結果と外部評価結果の比較

評価	内容	内部評価事業数	外部評価事業数
A	事業内容は適切である	1(25%)	—
B	課題が少しあり事業の一部見直しが必要	3(75%)	2(50%)
C	課題が多く事業の大幅な見直しが必要	—	2(50%)
D	事業の休・廃止を含めた検討が必要	—	—

内部評価と外部評価で異なる評価となった事業は、8事業あり、全体の47%となった。

内部評価と外部評価を対比し、総合評価ランク別に集計した表を次ページに示す。図表14は、市の内部評価でABCDの各評価に位置づけられた事業が、外部評価でどの評価に位置づけられたかを示している。

市の内部評価でA「事業内容は適切である」とされた5事業について、外部評価でもAと評価した事業は1事業、Bと評価した事業は3事業、Cと評価した事業は1事業あった。また、市の内部評価で、B「課題が少しあり事業の一部見直しが必要」とした12事業については、外部評価でAと評価した事業は1事業、Bと評価した事業は8事業、Cと評価した事業は2事業、Dと評価した事業は1事業となった。

図表14:評価結果総括表

内部評価結果		外部評価結果			
評価	事業数	A	B	C	D
A	5	1	3	1	
B	12	1	8	2	1
C					
D					
計	17	2	11	3	1

なお、内部評価結果と外部評価結果が異なる評価となった事業の一覧を、図表15のとおりとなる。

図表15:内部評価と外部評価の異なる事業の一覧

評価	No	事業名
内部:A⇒外部:B	10	農地利用集積事業
	11	交通安全応急対策事業
	17	研究委嘱校等支援事業
内部:A⇒外部:C	4	斎場運営事業
内部:B⇒外部:A	13	都市計画支援システム事業
内部:B⇒外部:C	1	越谷しらこぼと基金事業
	6	生活支援体制整備事業
内部:B⇒外部:D	7	介護保険利用者負担軽減対策事業

(2)補助金等事業の評価

補助金等事業については、対象とした4補助金単位で再評価した。その結果、図表16のとおり全ての事業で評価結果が異なった。内部評価で「継続」とした4事業について、3事業を「要改善」、1事業を「廃止」とした。

図表16:補助金等評価結果総括表

内部評価		外部評価					
区分	補助金等件数	継続	減額(縮小)	要改善	廃止	終期設定	統合・メニュー
継続	4			3	1		
減額(縮小)							
要改善							
廃止							
終期設定							
統合・メニュー化							
計	4			3	1		

内部評価と外部評価で異なる評価とした補助金等事業の一覧を以下に示す(図表17)。

図表17:内部評価と外部評価の異なる補助金等事業の一覧

評価結果区分	補助金等事業
継続⇒要改善	越谷しらこぼと基金助成金
継続⇒要改善	魅力発信プロモーション事業費補助金
継続⇒要改善	住宅耐震改修等補助金
継続⇒廃止	越谷市霊柩自動車助成金

(3) 内部評価・外部評価結果の一致割合について

外部評価制度は、平成16年度に試行し、平成17年度より実施している。平成19年度より平成21年度までの3年間にわたり80%台の高い割合での評価一致率を維持し、行政評価制度が定着した結果、内部評価の一定の客観性は継続して確保できているものとみられてきたが、平成22年度は76%、平成23年度は61%に連続して低下した後、平成24、25年度はそれぞれ66%、63%とほぼ横ばい傾向を示し、平成26年度は41%と大幅に低下、平成27年度は70%と一転して改善したが、平成29年度は31%と過去最低の一致率となった。

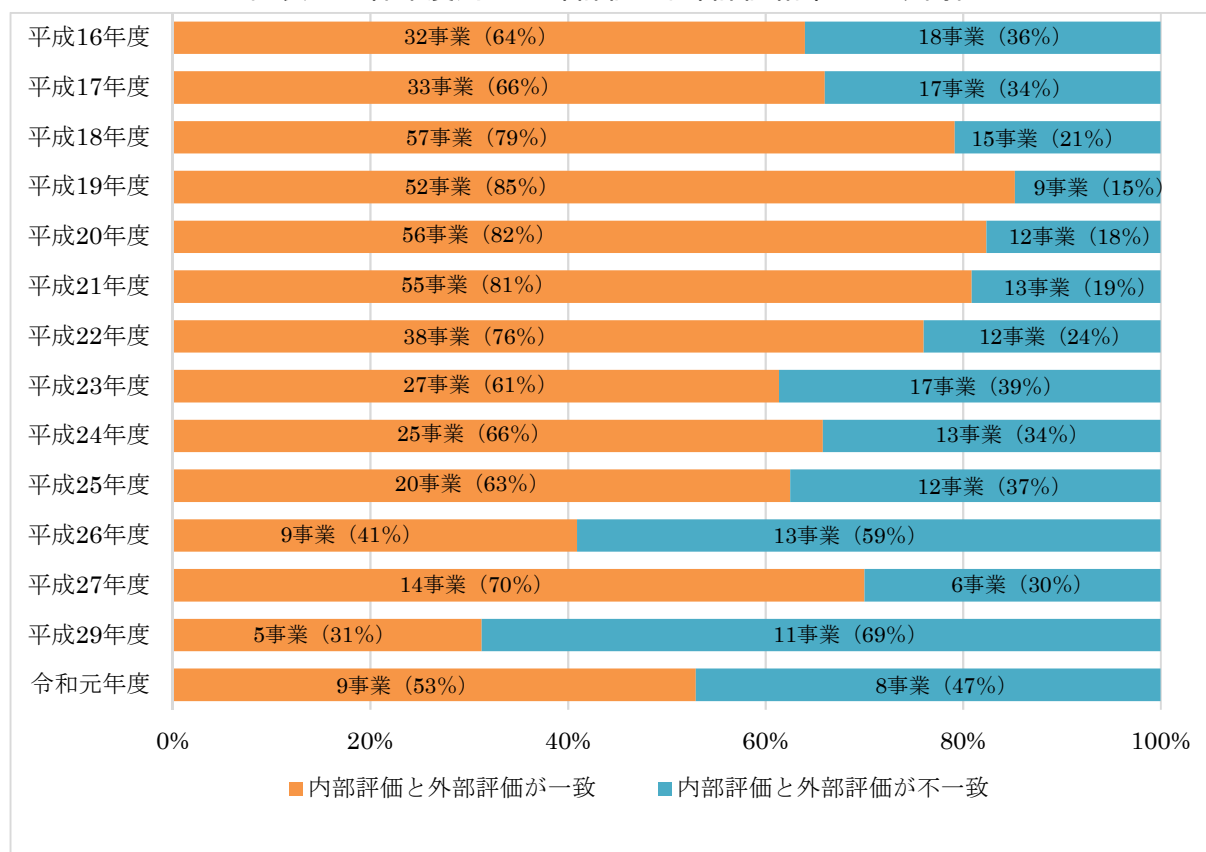
今年度の評価結果は、17事業中9事業(53%)について内部評価結果と外部評価結果が一致した。一方、内部評価に比べて、外部評価が低い評価になるケースが7事業あった。

また、内部評価の総合評価別に一致率をみると、内部評価段階でBとされた12事業のうち8事業について、外部評価でもBと評価し、一致率は66%となったのに対し、内部評価段階でAとされた5事業については、外部評価でもAと評価した事業は1事業、一致率は20%であった。

内部評価段階でAと評価とされた事業とBと評価とされた事業の間では、一致率に格差が生じる結果となった。

総合評価の結果が内部評価と外部評価で一致した割合を年度ごとに示すと以下の図表18のとおりである。

図表18：各年度別の内部評価・外部評価結果の一致割合



(4)傍聴者数について

全 17 事業ごとの傍聴者数の一覧を以下に示す。

図表 19: 公開ヒアリングの傍聴者数

日程	時間	A 班	B 班	合計
10 月 1 日(火) ヒアリング 1 日目	10:00~10:40	6	1	7
	10:50~11:30	2	4	6
	13:00~13:40	2	3	5
	13:50~14:30	6	3	9
	14:40~15:20	3		3
	合計		19	11
10 月 2 日(水) ヒアリング 2 日目	10:00~10:40	2	1	3
	10:50~11:30	1	3	4
	13:00~13:40	1	1	2
	13:50~14:30	0	1	1
	合計	4	6	10
10 月 18 日(金) 再ヒアリング	9:30~10:00	0		0
3 日間総合計		23	17	40

令和元年度の傍聴者数は合計 40 名となった(図表 19)。

しかしながら、同一人物が複数の事業でカウントされており、実人数は大幅に少なくなる。
今後、より一層の広報活動の改善・強化が必要である。

(5)傍聴者アンケートについて

傍聴者へのアンケート結果の集計を下記に示す。

1 傍聴日

10月1日(火) 11件

10月2日(水) 5件

10月18日(金) 0件

2 住まい

越谷市内 15件

越谷市外 1件

3 年齢

～20歳代 1件(6.2%)

30歳代～40歳代 7件(43.8%)

50歳代～60歳代 6件(37.5%)

70歳代～ 2件(12.5%)

4 外部評価公開ヒアリングの参加は何回目になりますか

初めて 10件(62.5%)

2回目 2件(12.5%)

3回目 1件(6.2%)

4回目以上 3件(18.8%)

5 公開ヒアリングで特に関心のあった事業はどの事業ですか。(複数回答可)

- ・越谷しらこぼと基金事業 3件(18.8%)
- ・防災施設整備事業 7件(43.8%)
- ・交通安全推進事業 3件(18.8%)
- ・斎場運営事業 0件(0.0%)
- ・審査会事業(介護給付費等の支給に関する審査会) 1件(6.3%)
- ・生活支援体制整備事業 4件(25.0%)
- ・介護保険利用者負担軽減対策事業 2件(12.5%)
- ・健康づくり推進事業 4件(25.0%)
- ・魅力発信事業 3件(31.3%)
- ・農地利用集積事業 0件(0.0%)
- ・交通安全応急対策事業 0件(0.0%)
- ・ポンプ場改修事業 0件(0.0%)
- ・都市計画支援システム事業 1件(6.3%)
- ・既存建築物改修促進事業 2件(12.5%)
- ・伝統芸術文化振興事業 1件(6.3%)
- ・蔵書等整備事業 3件(18.8%)
- ・研究委嘱校支援事業 1件(6.3%)

6 評価者(専門家)と説明者(市職員)のやり取りについて

- ・理解できた 7 件(43.8%)
- ・一部理解できなかった 7 件(43.8%)
- ・理解できなかった 0 件(0.0%)
- ・回答なし 2 件(12.5%)

7 「理解できなかった」と回答した理由

- ・言葉が早すぎる、よく聞き取れない部分が多かった。
- ・認識のズレ?
- ・資料が不足しているのではと思いました。
- ・交通事故総件数(減少)は、人口比で見ると成果がより強調されるかもしれません。(各地の取り組み具合)よいところは表しましょう。
- ・背景が不勉強で慣れない表現が多発のせいか、早口の説明のせいか

8 越谷市政のどの分野に関心がありますか

- ・福祉 6 件(37.5%) ・教育 5 件(31.3%) ・子育て 6 件(37.5%) ・まちづくり 6 件(37.5%)
- ・防災 9 件(56.3%) ・環境 6 件(37.5%) ・医療 5 件(31.3%) ・地域経済 3 件(18.8%)
- ・少子高齢化 7 件(43.8%) ・その他(経費の削減)

9 今後外部評価の対象としてほしい事業の分野はどの事業になりますか

- ・人権 2 件(12.5%) ・子育て 3 件(18.8%) ・介護 2 件(12.5%) ・障害 2 件(12.5%)
- ・まちづくり 6 件(37.5%) ・産業支援 3 件(18.8%) ・外郭団体 2 件(12.5%)
- ・高齢者対策 2 件(12.5%) ・公衆衛生 0 件 ・夜間休日救急 2 件(12.5%)
- ・公共事業 1 件(6.3%) ・その他(経費の節約)

10 外部評価の実施方法、その他全体を通して意見・感想

- ・未知の範囲が多すぎてよく理解できなかったが、ご担当者の苦労は伝わった。しかし市全体の経費の削減の方法が2,3つあります。いずれ提案させていただきたい。
- ・防災アプリの普及と通信障害、cityメールの普及促進が大切と思う。夜間の誘導をコストをかけずに蓄電池を使うことを推進すべきと思った。
- ・質問が的確で良かったと思います。
- ・外部評価者の方の職業等の詳細を教えてください。
- ・市立病院の外部評価を聞いてみたいです。(委託先との関係で難しいかもしれませんが)救急の対応や転院先について、中核市の中心になる病院としては物足りない面があるように思う話も聞きます。(草加や春日部、三郷などに救急車が向かうことも多々?)(インターン医師が多いらしいので対応したくとも危なくてできない?)
- ・民間の新しい設備、機能再生技術などをもっと取り入れて、経費削減、再生機能によるもっと3D的な削減方法があります。今後も続けていただきたいです。

・とても良い企画です。職員全体の意識向上にもつながると思います。全事業で行っていただきたいです。

令和元年度
越谷市行政評価制度支援業務
外部評価実施結果報告書

令和元年 11 月
一般社団法人構想日本